

剣道部を1学期で辞めてしまい、悩める高校時代を過ごした



といます。結局、高校時代の楽しかった思い出は、友達と映画を見に行ったくらいでした。

一人暮らしはさみしかったので、休みの日には実家に帰り、店を手伝うこともありました。ちょうど母が八百幸商店をスーパーマーケットに転換しようとする時期でした。お店も繁盛していましたし、楽しい手伝いでした。

東大は文科I類を受験して合格しました。しかし、これが大きな問題になりました。跡を継いでほしいと思っている母には、経済学部に行くと言っていたので、当時は大学に合格したら新聞に名前が載っていましたが、本来なら文科II類を受けているはずの息子が文科I類に受かったというので、母に「どういうことなんだ」と言われました。

私はこの際、正直な気持ちを伝えました。「私は商売に向いていないから弟に継がせてほしい」と。

母がその後、何と言ったかは覚えていません。あきらめたような感じだったと思います。私は受験する前、高校の担任の先生に進学のことを相談していました。

暮らしを変えた立役者

合格したが母は思い複雑

浦和高校に進学、東大目指す

浦和高校に進学、東大を目指す。浦和高校は、浦和地区の中心地である浦和駅周辺にあり、歴史のある学校です。川野氏は、浦和高校に進学し、剣道部に所属していました。

浦和高校は、浦和地区の中心地である浦和駅周辺にあり、歴史のある学校です。川野氏は、浦和高校に進学し、剣道部に所属していました。浦和高校は、浦和地区の中心地である浦和駅周辺にあり、歴史のある学校です。川野氏は、浦和高校に進学し、剣道部に所属していました。

浦和高校は、浦和地区の中心地である浦和駅周辺にあり、歴史のある学校です。川野氏は、浦和高校に進学し、剣道部に所属していました。浦和高校は、浦和地区の中心地である浦和駅周辺にあり、歴史のある学校です。川野氏は、浦和高校に進学し、剣道部に所属していました。

日経MJ 2019年4月24日掲載

埼玉県小川町の自宅から浦和高校までは通える距離ではありませんでした。浦高で、下宿をしました。浦高に入ってからよかったです。東大を目指す人が多かったこととです。でも高校生活はあまり充実していませんでした。自分で言うのもなんなのですが、真面目で、一人暮らしだからといって羽を伸ばすこともありませんでした。学校から帰ると、下宿先の家にあった筑摩書房の日本文学全集を端から読んでいました。あとはラジオで落語を聞くくらいです。

充実していませんでした。部活に入っていないこともありますが、これには理由があります。最初は誘われて剣道部に入ったのですが、結果的に辞めてしまいました。小中と続けていた剣道は、かなり上達していました。浦高の剣道部は県内の強豪校で、中でも強い先輩たちと、練習では

~HISTORY~